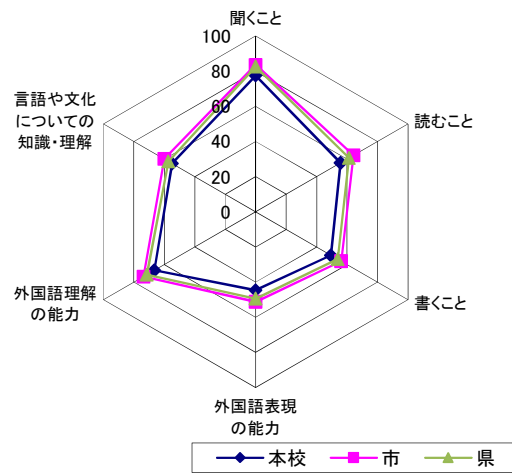


宇都宮市立田原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	77.4	83.6	82.6
	読むこと	55.7	64.2	61.2
	書くこと	49.4	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	44.6	51.2	49.4
	外国語理解の能力	66.6	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	55.0	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、他の領域と比べて高い。 ○カレンダーの日付を聞き取る問題では、唯一県の平均を0.4ポイント上回っている。1月から12月までの月の名前を覚える練習やゲームを定期的に行った結果、紛らわしい月も聞き分けられるようになったと考えられる。 ●撮影禁止の表現を聞き取る問題では、県の平均を何と21.0ポイントも下回ってしまった。一年時に学習した命令文や否定命令文の定着が不十分だったこと、takeの使い方に慣れていなかったことが考えられる。	・今後も普段の授業の中に可能な限り、まとまった量の英語を聞き取らせる指導を組み入れていきたい。ALTとのチームティーチングがその最たるものであるが、学年に応じてALTの説明や指示の日本語での補足を減らして、生徒たち自身の力で推測させるように心がけたい。 また、教科書の内容をCD等で導入する際、会話や物語の内容を追わせる上で、あまり詳細にこだわらずに話の流れをつかませ、あらすじを書かせたり、特に、ポイントとなる質問に答えさせるなどの活動を増やしていきたい。
読むこと	書くことの領域に比べれば、県の平均正答率とのマイナス差は少ない。 ○文と文の内容を読み取って接続詞を選ぶ問題のみ、県の平均を1.0ポイント上回っている。 ●人称代名詞の格変化の問題や場面の状況から応答を選ぶ問題やスケジュール表の読み取る問題で県の平均を7.4～9.1ポイント下回っている。一年時に暗記した人称代名詞の格変化を文章の中で適切に使う練習や図や表から情報を得るような教材の提示が不足していたと考えられる。	・教科書の読み物教材を扱うときには、最初は大雑把に読んでから○×テストを行うなどの工夫をしたり、人称代名詞や不定代名詞や指示語が何をさしているかななどの問題を出すなど、読み取り方にメリハリをつけさせたい。 また、実際に役割を演じながら読みの練習をさせることにより、自然に会話の流れがつかめるようにさせたい。電話、メール、道案内、買い物等、教科書の進度にあわせて様々な場面で全員にペアワークをさせていきたい。
書くこと	この領域のみ、すべて記述式の問題だっただけに県の平均正答率を大きく下回っている。 ○数をたずねる文の並べ替え問題では11.8ポイント、値段をたずねる文を書く問題では1.9ポイントだけ県の平均を上回ることができた。 ●人物を人称代名詞で言いかえる並べ替え問題では11.6ポイント、指示英作文では11.6～15.5ポイントも県の平均を下回ってしまった。授業や家庭学習で、テーマにしたがって複数の英文を作らせるような課題をより多く出す必要性を感じる。	・過去に学習した単語、熟語、慣用表現、基本文を復習するために、家庭学習の課題として書き取りの宿題を課すなど、授業では確保しにくい「英語を書いて練習する活動」に取り組ませたい。 作文に関しては、授業での基本文定着活動(ペアで矢継ぎ早にキーセンテンスをインプットする活動)や、自己表現英作文(その授業の基本文をテーマとする表現)に力を入れていきたい。その際、基本となる文に加えて、さらに2・3文の自己表現が続けられるように促していきたい。